

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	16703000274
法人名	医療法人社団 喜生会
事業所名	グループホームぬくもり
所在地	富山県射水市朴木244番地
自己評価作成日	令和2年10月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法人の理念である人間が人間を、人間らしく看るという当たり前のことを誠実に実行している。</li> <li>・ 医療法人が運営母体で、同敷地内、クリニックと老健が併設しており体調変化等にすぐ対応できる。</li> <li>・ 経験豊富で長く勤務している職員が多い。</li> <li>・ 入居者のペースに合わせての行動や体調管理ができています。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>「ゆったり楽しく心安らぐ、家庭的な雰囲気、個々の入居者の人格を尊重し、心豊かな人生を・・・」という事業所の理念は職員に浸透されており、管理者をはじめとする職員全員で実践に向け日々取り組んでいる。利用者に寄り添い、生活・暮らしの中でできる力を引き出し（あきらめない・できないと決めつけない）、発揮できる場を設け、且つ意欲につながるよう支援をしている。利用者の喜びが職員の意欲を向上させ、サービスの向上につながっている。利用者の日々の写真からも、いきいきとした表情に、満足感が伺える。</p> <p>医療法人が運営母体で同じ敷地内にあるため、利用者はいつでも安心して医療を受けることができる体制があり、また、併設施設と行事の交流や災害での連携等、利用者の生活の質の向上が図られている。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごして頂けるよう考え支援している。月に1回理念を唱える日を決め職員同士で共有している。又、併設施設との交流を図り生活の向上につなげている。	法人理念を基本にしたホームの理念があり、玄関と事務所に掲示されている。職員は毎月1日に唱和して確認し、職員に浸透している。共有された理念は、日々の実践に活かしていくよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設での行事に参加したり、外出クラブで周辺地域へ出かけ施設の回りを散歩して地域との交流を図っている。	地域の獅子舞を見学に行ったり、地区の中学校との交流やボランティア受け入れ等していたが、コロナ禍により、併設施設の行事に参加し交流を図ったり、また併設施設への受診の際に、地域の方と会話をしたりとつながりが持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	木戸クリニック院長による認知症の判断、治療法対応方法について助言、指導をもらい支援に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回入居家族、地域包括支援センター、地域住民等の参加を得て運営推進会議を実施していたが、今年度はコロナウイルス拡大防止の観点から様子を見て1回実施した。	2ヶ月に1度、家族、地域住民、行政代表、地域包括支援センター等の参加を得て開催していたが、コロナ禍で今年度は1回実施。入居者の日常生活の様子を写真で回覧し、事業所の取り組み内容の報告、施設見学を行い、施設の様子が具体的にわかりやすく伝わるよう理解を得る工夫がされている。家族や参加者からの意見を聞き、情報交換されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、市町村との連携に対してできるだけ取り組む様に努めている。認定調査時に、施設の状況、日常的な取り組みなどを詳しい情報を伝えている。	運営推進委員会に市の担当者が参加され、事業所の共有がされており、相談や助言を頂ける関係を築いている。また、市が主催する研修会(認知症VR体験)に参加する等、市町村との連携や協力体制を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、報告会、勉強会を活かして個々と向き合い気持ちに添った介護を心がけている。併設施設の駐車場がある為、やむなく玄関の施錠をしている。	身体拘束廃止の指針に基づき、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。3か月に1度、身体拘束廃止委員会を開催し、議事録を作成する等、人権を守る、気持ちに添ったケアを心がけている。また、外部研修(高齢者虐待対応研修)に参加し、職員周知への努力をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだ事を勉強会で報告、伝達し知識向上につなげている。そして人としての尊厳、生活の質の向上をめざしている。又、身体的、心理的虐待、過剰な負担感を与えない様職員同士で注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の日常生活や心得を理解し管理者と職員で勉強会やカンファレンスを実施している。ご家族がいない場合や疎遠な方は成年後見制度が活用できるよう視野に入れて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、初めに重要事項説明書をわかりやすく十分に説明し、ご家族の同意後利用契約を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の意見や要望に耳を傾ける姿勢を示し課題を掲げながら職員全体で把握し運営に反映させている。	利用者からの要望等は、日々の中で聞き取り対応されている。例えば食事面で「魚の種類が少ない」という地域ならではの意見に、丁寧な対応をされ利用者の満足度につなげている。家族・利用者の声は、職員間で共有し、ケアプランや日常のケアに反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は個々の意見や現場での声を聞き入れる前向きな姿勢を示し話しやすい場、提案しやすい空間に配慮している。	管理者は、日々の業務を職員と一緒にいる中で、個々の職員から細かな意見が聞ける環境にあって、意見に耳を傾け、その都度上司と相談し、意見や提案を運営に反映させるよう努めている。中庭において除草シートを敷く改修をしたことも職員からの提案であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホームでの役目や意を再確認し互いに探求、向上しながらより良い職場環境や働きやすい空間作りの在り方を工夫し努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の参加、職員へ適切にケアの助言や指導を行いスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会に参加し情報交換したり、会議、職員間の中で情報を共有しサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様に本人の状態、意向を伺い信頼関係を築くように努めている。本人の状態は職員間で把握し安心して暮らせるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、思いなどを伺い信頼関係を築くようにしている。又、コミュニケーションを取り、本人が安心して暮らせるように気持ちに寄り添う関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居の際は、当法人の管理者である医師が入居者様を診察し、入居が望ましいと判断された方については本人と家族の意向を尊重しながら、他のサービスの利用も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様に対して日頃から話を傾聴するのは勿論であるが、おやつ後などにレクリエーションを行い、話しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時、面会のご家族も支援の対象である事をふまえて、本人とご家族の絆を支援できるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響で、他者との支援に制限はあったが、ぬくもりでは玄関横のガラス越しで面会を実施している。本人希望時に電話取次ぎも支援している。	コロナ禍以前は、利用者のなじみの関係を大切に、家族と一緒に行きつけの美容院へ行くことや、友人や知人との面会、曳山や獅子舞等のなじみの場所へ行くこと、行きたいところへ行く支援を行っていた。コロナ禍では、家族との面会も制限される中、家族への電話の取次ぎや玄関先で写真を見せたり等、個々に合わせた支援を工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍ではあるが、職員は入居者様ができる事を把握しており、入居者様同士の関わりへの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では、退居後の接触が少なく判断が難しい。施設利用後に当グループホームに再入居の方も増えて来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が、日々安心して過ごせるよう個々の思いや希望、意向の傾聴に努めている。	本人の思いや意向は、日誌等に記載されており、職員間で共有し、ケアプランに反映している。職員は、日々の生活の中で、「傾聴」することを大切し、一人ひとりの思いに関心をもち、把握するよう努めている。	その人らしく暮らし続ける支援に向けて、傾聴した本人の意向等誰が見てもわかるような記録の整理や工夫を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴を、本人から傾聴し、できるだけ今までの生活環境に近くなる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の生活サイクルを把握し職員で共有し、プランの更新につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一度、介護計画を見直しモニタリング後、計画案について、併設施設の医師、看護師、理学療法士等の専門職と共にカンファレンスを実施している。ご家族にも、意見を聞き計画に反映している。	介護計画の見直しは3か月に1度行い、モニタリングを踏まえた計画案については、併設施設の医師、看護師、理学療法士、栄養士等の専門職を交えたカンファレンスを実施。日常生活、健康、栄養を多職種連携で現状に即した介護計画の立案につなげている。見直しの時期には家族に意向を聞き、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを作成し生活の様子を記録後、職員間で理解し問題等があれば話し合い、日々の介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	持病の治療や、体調不良があった場合、併設のクリニックへ職員が付き添い受診し結果を家族に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員に日頃から相談やコミュニケーションを取り、信頼関係を築けるように努力する。入居後もできる限り相談相手になって頂き安心して暮らす事ができるように支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良時は、随時併設クリニックを受診し適切な医療を受け医師の判断によって他病院に紹介状をもらい受診する。本人、家族共に納得する医療を受け、かかりつけ医との信頼関係に努めている。	母体クリニックの医師が定期的に(1回/4W)に健康を把握し、状態の変化や急変時には24時間対応する等、常時適切な医療が受けられる体制の為、安心につながっている。こまめに情報を伝え連携を図っている。医師の判断により、他の病院へ受診する場合は、家族が紹介状を持参し受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の訴えや、体調不良時は看護師に相談している。月1回の定期受診の際に記録した様子を伝達しており入居者様が適切な看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、入居者の服薬状況や、生活状況を報告、把握しスムーズに入院や、退院後の生活ができる様努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ぬくもりでは、現在でも終末期の対応は行っていません。重度化された場合担当医師と本人、家族を含め話し合い併設老健施設に移っていただいている。	「グループホームにおける重度化対応に関する指針・方針」があり、入所時に口頭で説明されている。利用者の重度化による状態の変化については、併設クリニックとの連携で個々に見合った判断を行い、家族や本人を含めた話し合いのもと、併設老健施設へ移って頂く対応がされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の状態が急変された場合、職員は緊急マニュアルに従って併設老健の医師、看護師に連絡し、指示に対して対応できるように朝の申し送り時に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に避難する方法を記入した用紙をユニットに貼っており、職員間で情報共有し話しあっている。1年に2回併設施設と協力して避難訓練を行っている。	1年に2回併設施設と連携・協力して合同で行っている。日中想定火災訓練と水害(レベル4)を想定した避難訓練を実施している。地域的に地域との協力体制は難しく、グループホームの利用者の避難においては、併設施設からの支援体制があり、職員間で共有が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する尊厳と接遇に関しては職員間研修に参加し入居者様に対して注意、配慮している。 今後も尊厳とプライバシーに関しては、研修等で学んでいきたいと考えている。	尊厳とプライバシーの関わり方においては、職員が研修に参加し報告する等、職員間で共有を図っている。日々の中での利用者一人ひとりの対応方法については、必要なところを支援すること、名前の呼び方、排泄や入浴時の個々の思い等、尊厳・羞恥心を尊重して丁寧な対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は話しやすい環境や雰囲気作りを考え入居者様が職員に思いや希望を訴えやすくなるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の生活歴を大切に家庭的な雰囲気の中その時に本人がしたいと思っている事を汲み取り本人のペースでゆったりと過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、又は家族の意向により併設施設での床屋を利用し頂いている。 入居者様の気持ちに添い、季節に合った衣類の提供、管理を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が食べたいと訴えがあった場合などは出来るだけ対応できるよう努力している。 食後の皿拭き、運びなど職員と一緒に片付けをしている。	利用者の好みや希望を聞いて、献立を一緒に作り提供している。施設行事でぜんざいを作って食べた時に、利用者の喜んだ表情に職員も一緒になって涙ぐんだという程、利用者の喜びが職員のやりがいにもつながっている。寿司バイキングやおやつ作り等、食事を楽しむ工夫がされている。調理の下ごしらえや後片付け等、できる力を発揮する場面を設け、且つやりたい意欲を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の身体の状態を把握し、その時にあった食事形態、とろみ、きざみ食、荒キザ、お粥を提供している。摂取状態を観察し記録している。又、昼夜をとわず水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は本人の状態や能力に応じ口腔ケアを促し行っている。義歯は職員が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個々の状況をじっくりと見ていくことを大切にし、その時々に応じた声掛けの支援を行っている。排便後は温タオルで清拭し排便困難者は、運動、食事内容の見直し、医師に相談受診などの支援をしている。	排泄チェックシートを活用しながら、排泄パターンを把握し、個々の状況に応じた対応をしている。過剰介護にならないように、さりげなく見守り、自立に向けた支援を行っている。排便後は温タオルで清拭し、「気持ちいい」と爽快感が得られている。自然排便を促しているが、排便困難者には医師に相談し、必要に応じて下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状況は日々記録に残しており毎日の献立を工夫するなどの参考にしている。こまめな水分補給、運動、服薬等の個別の便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良以外は週に2回以上の入浴を勧めています。気の合う入居者同士で入浴できるような配慮をしている。	月～土まで毎日、希望があれば入浴可能な体制になっている。週2回を基本としているが、利用者の体調や思いに添った柔軟な対応を心がけている。気の合う利用者2人で連れ立って浴室へ行ったり、浴槽で職員と会話を楽しみゆったり入ってもらったり等、個々に応じた対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室での休息を安心して気持ち良く眠れるように、なじみの物を置いたり入居者の状態に合わせて気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様の受診に付添ったり服薬介助は薬の効果が得られるよう状況を確認しながら支援を行っている。入居者様の薬品情報は職員が共通に理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる事をして頂き、楽しみながら日々過ごせるように個々の意思決定に沿った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設での行事に参加したり、外出クラブで周辺地域へ出かけ施設の回りを散歩して地域との交流を図っていたが、新型コロナウイルス感染症が流行している現在は外出制限している。	年間行事計画に外出の計画があったが、コロナ禍の為、何か施設内でできることを考え、「お楽しみ新湊釣り大会」を行った。外出だと参加人数に限られるが、全員参加で楽しめて、できることの発見や気づきの視点へとつながっている。「朗唱の会」では家族も参加し、利用者が万葉集の歌を歌い、「歌を詠める」力を引き出す等、コロナ禍の代替として楽しみ方を工夫している。また、中庭が整備され、天気の良い日に散歩したりと楽しむ時間を設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症対応型の為、現状では、お金の所有や使うことは難しいが、今後は支援できるよう努力したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望により電話をかける介助を職員が行い取り次いでいる。又、手紙、はがきのやり取りができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく、穏やかに過ごせるよう玄関やフロアには季節に添ったタペストリーを飾っている。中庭の朝顔や庭にある無花果の木、新しくできた花壇は季節を感じる事ができるように工夫している。	玄関は明るく、ガラス越しに中庭が開放的な空間となっている。フロアはゆったり落ち着ける雰囲気があり、壁面には季節に合わせた装飾がされている。利用者一人ひとりが穏やかに過ごすことができるよう配慮された空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃から気の合う入居者様同士で会話ができるように、プライバシーを保ちながらゆったりと安全に配慮した居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入居者様の状態に合わせてベットやタンスの位置、壁には本人の作成したパズルや、家族との写真など好みの物を置いたり心地よく過ごせるように工夫している。	窓からの景色もよく、安全で心地よく過ごせるプライベートな空間になっている。個々に好みの家具や慣れ親しんだ小物などが置かれ、その人らしい居室の配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール他には、常に職員を配置しており入居者様の安全に配慮している。又、建物内部は入居者様の自立支援に繋がるように手すりや居室の名前など工夫している。		

## 2 目標達成計画

グループホーム ぬくもり

作成日： 令和 3 年 1 月 10 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居者の日々の状態や、普段の何気ない会話を記録していたがその内容が要約できずにいた。その為職員全体が介護記録を評価やアセスメントに上手く生かすことができていなかった。	入居者からの傾聴した意向等の内容を記録する時は誰がみてもわかりやすくケアプランへの反映になる様に努めていく。	介護記録の記入時、件名を付けるなど職員全体がひと目でわかる整理のできた介護記録にする。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。